



諏訪湖畔公園 右の三角屋根の建物はカトリック諏訪教会

羊飼いの話

典礼聖歌の中にある歌です。(404番)

羊飼いがいて たくさんの羊を飼っていた。
ある日その中の一匹が迷子になってしまった。
羊飼いは他の羊をおき、その一匹を探しに出る。
もし見つけたらどんなに喜ぶことだろう。

「よい羊飼い」の話 (マタイ 18. 12-14 / 路 15. 4-7)

「迷える子羊」ということばはよく聞きます。
もし羊が家畜でなくて人間だったらどうでしょう。
そしてそれが自分の子供であつたらどうでしょう。
お父さん お母さんは泣きながら我が子を探すに
ちがいありません。

ましてそれが人間よりも深い愛の神様だったら
どうでしょう。
歌は続きます。

羊飼いはキリスト、その一匹はわたし
羊飼いはキリスト、その一匹はあなた
どんなに小さな一人をも
神は見すてることがない。
神は見すてることがない。

神様が私たちを愛してくださるとはどんな
ことなのか、考えてみましょう。

<お薦め> 『小さな話』より「迷える1匹」

<http://seseragi.jesuits.or.jp/02-story/s-419.htm>